

2024 年度 自己評価報告書

星稜中学校

「成果指標」について

それぞれの項目の成果指標は、学校生活アンケートと学校評価アンケートの下記の質問番号の回答により、A：できた(80%以上)・B：概ねできた(70%以上)・C：やや不十分だった(60%以上)・D：不十分だった(60%未満)の4段階で達成度を判断する。
※学校生活アンケートの場合は「できている・概ねできている」を選択したパーセンテージ。

※学校評価アンケートの場合は「当てはまる・どちらかと言えばあてはまる」を選択したパーセンテージ。

生徒指導 ①②③④ 学校生活アンケート

学習・進路指導 ① 学校評価アンケート①・②・③ ② 学校評価アンケート⑦ ③ 学校評価アンケート⑨

具体的取り組み		評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
生徒指導 ―基本的生活習慣の確立―				
①	けじめある学校生活を送るために、登校時間を守り、授業開始のチャイムと同時に着席する習慣を身につけさせる。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	今年度は代議員会を中心に授業前の「3分前着席」を実施した。生徒が主体的に取り組む姿勢が見られた。遅刻した生徒への対応ができていなかった。学年課長と担任、保護者で協力して、生徒を支援していきたい。
②	明るく気持ちの良い挨拶の励行により、言葉遣いや礼儀作法を身につけさせる。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	部活動の生徒を中心にしっかり挨拶ができる生徒は多い。今後は、全員が心のこもった気持ちの良い挨拶ができるような雰囲気づくりを大切にしていきたい。
③	教室掃除や身の回りの整理整頓に心がけ、環境美化に努めさせる。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	各行事の前に学校全体で、校内美化を徹底できた。試験前には身の回りの整理整頓の指導を行ない、生徒たちの意識を高めた。普段から美化委員会を中心に環境美化に努めたい。
④	自転車マナー・ヘルメットの着用など交通法規を守り安全な登下校に努めさせる。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	本年度は大きな事故もなく安全に登下校させることができた。1学期は課員全員で協力し、指導を徹底できた。年間通して指導を継続していきたい。
学習・進路支援 ―6年間の一貫指導における難関大学への進学を目指す―				
①	学力向上のために、習熟度別授業・実力試験等を積極的に実施するとともに、毎日の家庭学習を定着させる。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	学校評価アンケート①・②・③平均78% 今年度、定期試験前に各教科の先生方に質問する場を設けて欲しいとの生徒会の要望から、「学びの場」を設定した。生徒、教員からも好評であったので、来年度は定期試験前だけでなく、S校時の放課後などの実施を検討したい。さらに、学習意欲を高めるための学力向上コンテストの実施など、様々な企画を打ち出していく必要がある。
②	学習と部活動の両立を目指し、生徒がそれを実現できるように配慮し、指導するように努める。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	学校評価アンケート⑦78% 生徒は、しっかりと両立を目指して努力している。定期試験成績上位者の中にも部活動を行っている生徒が多数いる。

③	ICT教育の導入により、タブレットPCを授業や家庭学習で活用し、学習の効率向上に役立てるように努める。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	タブレットPCを用いてMetaMoJiクラスルーム等を通じ課題に取り組めた。各教科の特性に応じ、効果的に利用できている。
具体的取り組み		評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
部活動 ―全国大会の出場を目指す―				
①	部活動での全国大会出場を目標とする。	成果指標 A：4競技以上出場 B：2～3競技出場 C：1競技出場 D：全国大会出場なし	A	野球部 文部科学大臣杯全日本少年春季軟式野球大会 優勝 全日本少年軟式野球大会 第3位 サッカー部 全国中学校サッカー大会（8月） ベスト16 トランポリン部 全日本トランポリン競技年齢別選手権大会 13-14歳女子の部 第2位 全日本トランポリン競技ジュニア選手権大会 女子個人 第3位 川崎トランポリンジャパンオープン 兼 JOC ジュニアオリンピックカップ 女子個人 第3位
②	部活動に対して十分な指導と支援を行なうことによって、生徒の技能が向上するとともに、人間的にも成長できるように努める。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	スポーツ同好会の募集を増やし、活動を活発に行いたい。バスケットボールを中心に意欲的に取り組むことができた。部活動で起こった問題行動を、生徒支援が中心となって対応することができた。
生徒募集活動				
①	学校要覧及び学校案内はもちろん、生徒募集に関わるすべての企画において、中高一貫教育を柱とする本校の新しい教育活動の認知度が高まる広報活動を行う。 【生徒募集に関わる企画】 ・学校要覧 ・学校案内（通常） ・学校案内（簡易版） ・学校見学会（2回） ・学校説明会（4回） ・スタ★ラボ（科学・工作・クッキング教室） ・学校見学会・説明会チラシ（2回） ・学校行事公開 ・公開授業	成果指標 A：4項目以上で達成できた B：3項目以上で達成できた C：2項目以下しか達成できなかった D：取り組めなかった	A	今年度も学校説明会・学校見学会の申し込みをすべてWebで行った。学校見学会（7、10月）参加申込数 229名（前年比140%）。学校説明会参加申込数 150名（前年比176%）。スタ★ラボおよび部活動体験数申込者は122名（前年比88%）。合計申込数は501名（前年比130%）。本校の新しい教育活動の認知度は高まっているといえる。学校の説明会を知ったきっかけをアンケートで尋ねたところ、リーフレット・Webサイト・友人知人の紹介が上位を占めた。
②	昨年度に引き続き、中学生が入寮できる寮についても含めてWeb広告、雑誌への掲載広告を全国の小学生対象に行う。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	昨年度からインスタグラムを開設。今年度は282件投稿（前年比280%）、フォロワーは975（前年比375%）。
③	学校説明会と学校見学会の参加者合計300名以上、志願者150名以上を目指す。	成果指標 A：志願者150名以上 B：志願者130～149名 C：志願者110～129名 D：志願者109名未満	B	学校説明会と学校見学会の参加者合計501名、志願者140名、入学者117名。

④	小学校訪問・塾訪問を積極的に行い、関係強化に努める。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	今年度は小学校訪問・塾訪問を拡大して行った。金沢育英センター・東大セミナーでの説明会をそれぞれ春秋と2回行った。
《次年度における校務改善に向けて》 中高一貫教育校として新しく歩み始め、8年目を無事終えることができた。上記の評価報告では生徒指導、学習指導、部活動、生徒募集活動と大きく4つの観点から報告されているが、総じてA評価と結論づけておきたい。ただし、成果指標がBであった学習・進路指導については、昨年に引き続き保護者アンケートや学校生活アンケートで満足する評価が得られるように、各項目を検証し、教育活動を進めていく。また、2025年度より新教育カリキュラムが始まる。新教育カリキュラムの運営に努めたい。志願者数については、学校説明会・学校見学会に加えて、学外での説明会と個別相談会をより強化し、本校の教育を多くの方に周知することに努めたい。 次年度も保護者の方々のご理解とご協力を得ながら、新しい教育をリードする中高一貫教育校として勇猛精進していきたい。				